



小林やすお

「小学校の教室が足りない」

麴町小学校の普通教室が3室増えます

平成3年12月、千代田区は「公共施設適正配置構想」（以後、公的配）を発表し、区立小学校・幼稚園は14校園から8校園になりました。

「公適配」とは、人口減少にあった千代田区が定住人口5万人回復とコミュニティの再生を目指し策定したもので、発表後の平成7年には人口34,780人まで減少し基礎的な自治体として存続危機にあり、隣接区と合区されるなど千代田区存亡の機にありましたが、その頃から働き・通勤について世相も変わり、都心回帰など職住接近が潮流となりました。

そして、新築ビルは事務所ビルから、住宅（マンション）建設が主流となり、ファミリー世帯が増えて人口増加に転じ今年6月には67,159人まで回復しました。（34,780人→67,159人）

結果、子供も増えて教室が足りなくなりました。保育園不足も同じ理由です。

教育委員会の課題

- 1, 児童・生徒数の急増による学級編制への影響や教室不足等が生じている。
- 2, 特別教室等の改修等による普通教室の増加や、新校舎整備に合わせた教室数増設等を行っているが、その対応も限界にきている。
- 3, 令和7年度までの5年間で、小学校の学級人数を段階的に35人とする必要がある。



課題解決の一例として

麴町小学校の普通教室増に向けた改修、麴町小学校は出張所・区民館と複合施設（合築）であり内部移動ができるので、区民館の和室2部屋を小学校の普通教室3室に改修します。



麴町区民館 和室



尚、通学区域内にマンション建設が進む和泉小、千代田小、富士見小、九段小、番町小も早急に対策を講ずる必要があります。